

2020年度 専修学校 育成保育カレッジ学院

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：校長 仲村 義明

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西江 徳雄

1. 学校の教育目標

社会生活で必ず要求される心のやさしさや礼節、知識を養い教養文化のバランスのとれた人間育成を目標とする。

本校は、沖縄独特の文化、礼節・謙虚・感謝、見えないけれど大切なココロ、勝ち負けよりも礼を重んじる。子どもを愛し「ありがとう」の気持ちを忘れない。それが、育成が求める「保育道」である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育目標 「育てるココロを育てる」

入学定員の充足率が80%

退学率 10%未満

就職率 100%

① 振り返り

平成2年に各種学校で認可を取り同時に近畿大学九州短期大学通信教育部と学部提携校として3年課程でスタートした。平成7年には専修学校の認可校としてさらに教育内容も充実させることで平成4年～平成25年迄は、常に定員(75名)の80%の入学応募があり卒業生の就職率も毎年95%以上達成し保育園等の現場の信頼度も本校に寄せる期待も大きいものがある。卒業生約1,100名のOG・OBの活躍もあり、その結果学生の定員は常に充足率平均で70～80%前後であった。

平成26年度から他の保育専門学校が2年課程で保育士取得が出来る様になってから徐々に本校も定員割れがでてきた。まず要因として考えられるのが進学しても経済的に余裕がない家庭の学生が多く学費が払えないのが最大の原因で、その結果2年課程の学校に応募者が流出し始めた。さらに平成29年から令和元年にかけて文科省が進める高等教育無償化の申請の要件を満たすことが困難であると独自で判断した事が要因となり、高校2年生対策及び独自の特待生制度やオープンキャンパスとインターネット等の学生募集の対策が他校に比べ遅れたことも大きく影響した。

今後は創立時の歴史の原点に戻り高等教育の修学支援(授業料減免・給付型奨学金)や職業実践専門課程を取得することで安定した学生募集が出来る様、授業内容をさらに充実させて本校の強みである専門職である保育士の質の担保を確保し、保育士養成の学校として全教職員でスタートの年としたい。これからも本校は県内外で保育士不足解消の為に人的資源を生かし保育士養成校として社会に貢献できる学生を育成し努力し推進していく考えである。

② 学校関係者評価委員会コメント

各項目ごとに評価委員会のコメントが記載されている。

自己点検評価及び学校関係者評価

専修学校 育成保育カレッジ学院

自己点検日評価実施日	2020年 6月 5日 ~ 6月 10日
学校関係者評価実施日	2020年 6月 12日 会場：本校1階第6教室
自己点検評価項目	適正：4 ・ ほぼ適正：3 ・ やや不適切：2 ・ 不適切：1
学校関係者評価項目	適正：4 ・ ほぼ適正：3 ・ やや不適切：2 ・ 不適切：1

評価内容		自己評価	達成状況	関係者評価
1.教育理念・目標・育成人材				
①	教育理念・目標・育成する人材像は、明確に定められているか。	4	文書化している。	4
②	教育理念・目標・育成する人材像は、職員・学生に共通理解されているか。	4	新学年初めに、職員・学生に目指す人材像を共有している。	4
③	教育理念・育成する人材像がIIP、パンフレット、募集要項に等に記載されているか。	4	記載している。	4
学校関係者評価				
<p>「育てるココロを育てる」を理念として掲げ、何よりも学生が社会に出た時に、一人前の保育士として活躍できるように学院長はじめ教職員の皆さんが人材育成に取り組まれている。</p>				

2.教育の内容（教育理念の達成に向けたカリキュラムの作成などの取り組みがされているか。）				
①	教育理念の達成に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	文書化している。	4
②	カリキュラム作成のためのカリキュラム作成委員会があるか。	3	設立はしていないが、今後新たに設立する予定である。	3
③	カリキュラムを作成するにあたり業界関係者の外部関係者の意見を取り入れているか。	4	元小中高等学校校長から意見を参考として取り入れている。	4
④	シラバスあるいは講義要項などが作成されているか。	4	シラバスは、全科目について作成されている。	4
2.教育の内容（教育理念の達成に向けた教授学習プロセスの改善への取り組みがされているか。）				
⑤	学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか。	3	科目によって実施しているが、今後は定期的に実施していく。	4
⑥	授業改善のための組織的取り組みが行われているか。	3	学生に各授業の様子などを聞き、今後さらに組織的な取り組みを行う。	4
2.教育の内容（教育理念の達成に向けた業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みがされているか。）				
⑦	企業・施設などでの実習があるか。	4	施設実習のカリキュラムが充実している。	4
⑧	キャリア教育を行っているか。	4	業界の専門家を講師として依頼している。	4
⑨	ビジネス教育を行っているか。	4	学年ごと科目の中に導入して実施している。	4

⑩	コミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを行っているか。	4	科目の学習においてプレゼンテーションの機会を設けている。	4
2.教育の内容（教育理念の達成に向け教員の資質の向上に向けた取り組みがされているか。）				
⑪	専門性や指導力等の向上のための外部研修へ派遣しているか。	3	研修会などへの参加を推奨している。	4
⑫	教員の資質の向上のための、自己啓発への支援をしているか。	3	研修会などへの参加を推奨している。	3
⑬	外部人材の意見を反映する事の出来る組織を設置している。	3	設置している。	4
⑭	関係教育機関並びに関連業界等の動向は常に情報収集を行っているか。	4	常にインターネット等で情報収集を行っている。	4
学校関係者評価				
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の悩み相談も受付をして問題解決に向けてのアドバイスがされている。又、県外研修を取り入れて生徒の視野を広めることも行われている。発表力を身に付けさせる為、実習体験発表会がカリキュラムに組まれている。 				

3.教育環境 ・安全管理				
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	施設設備は少し課題。	3
②	学内外の実習施設、インターシップ、などについて十分な教育体制を整備しているか。	4	専任及び担任教諭を置き対応している。	4
③	防災・安全管理に対する体制は設備されているか。	3	明文化はしていないので早目に設備する予定。防災訓練実施は有り。	4
学校関係者評価				
<ul style="list-style-type: none"> 学生職員の安全は最優先されるべきものであり、防災訓練マニュアルは早期に作成してもらいたい。 施設整備については、学院の長い歴史と共に老朽化している所はどうしてもあるが、学生にとって最善の環境を提供するよう努め実際に提供されている。 				

4.学修成果				
①	就職率の向上が図られているか。	4	創立以来、平均95%以上の就職実績。	4
②	資格（免許）取得率の向上が図られているか。	4	各担任と共有し、向上に努めている。	4
③	退学率の低減が図られているか。	3	この2・3年退学者が増え課題。主な理由としては授業料の負担が大きい。	3
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	卒業生の活躍は30年の歴史と学校への信頼で高い評価を受けている。	4
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	色々な悩みや相談に対応し、学生から卒業後も良い報告を受けている。	4
学校関係者評価				
<ul style="list-style-type: none"> パンフレット等から卒業生が各界で活躍している様子がよく分かる。本校に対する信頼度も高い。 数多くの卒業生が今もなお保育現場の第一線でご活躍されている事実が何よりの実績であり成果である。学院長・事務局長そして教職員の皆さんが学生一人一人と真摯に向き合い、卒業後の保育士像をしっかりと学生にイメージさせ指導に取り組まれている。 				

5.学校運営 (学生支援 ・ 学生募集)				
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	担当を配置している。	4
②	学生相談に関する体制は整備されているか。	4	各担任と共有し様々な悩みを聞き、早目に相談に応じている。	4
③	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	4	共有し担当を配置している。	4
④	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	担当を通し体制を整えている。	4
⑤	学生の生活環境への支援は行われているか。	4	担当を通し体制を整えている。	4
⑥	保護者と適切に連携しているか。	4	気になる学生に対し、各担任と連携している。状況に応じて三者面談あり。	4
⑦	中途退学者への支援体制はあるか。	4	担任より報告時から全職員間で共有し何度も話し合いを設けている。	4
⑧	学生募集における学校説明会を実施しているか。	4	実施している。	4
⑨	オープンキャンパスは実施しているか。	4	実施している。今後は保護者向けの説明会も実施していく。	4
⑩	学校の宣伝 (PR) や学生募集は積極的に実施しているか。	4	実施している。	4
学校関係者評価 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業と同時にすぐに保育士として仕事ができる様に時間厳守の徹底や万一遅れた場合の対応の指導がされている。学生達の社会貢献として、献血活動や地域清掃活動に積極的に参加させている。 ・学生と普段からコミュニケーションを大切に、小さな異変も見逃すことがないよう努めている。学生との信頼関係を形成されている。一年を通して積極的にオープンキャンパスを開催し、開かれたイメージがある。 				

6.学校運営 (社会貢献 ・ 地域貢献)				
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	学校周辺や地域清掃などを積極的に行っている。	4
②	生徒のボランティア活動、支援しているか。	4	実習前、多くのボランティアに参加活動させている。	4
③	地域に対する公開講座・教育訓練 (公共職業訓練等を含む) の受託等を積極的に実施しているか。	4	2年前までは、行政 (市役所) から保育士試験対策講座の委託訓練を受けていたが、今後は教育訓練の受託を再度検討する。	4
学校関係者評価 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のボランティア活動は大切なので今後とも続けてもらいたい。本校の学生の挨拶は気持ちいい。 ・学院周辺を学生達に毎朝ゴミ拾いをさせている。又、草刈り作業をしているのがよく見受けられる。 				

7. 学校運営 (改革・改善)				
①	自己点検・評価のための運用ルールが文書化されているか。	3	文書化している。	4
②	自己点検・評価の組織があるか。	3	自己点検を行っている。	4

③	自己点検・評価の必要性を全職員に伝える機会を設けたか。	3	会議を通して報告を行っている。	4
④	自己点検・評価の結果に基づき計画的に改善を実施しているか。	3	改善に向けて、進めている。	4
⑤	自己点検・評価報告書があるか。	3	改善に向けて、進めている。	4
⑥	自己点検・評価報告書が公表されているか。	3	情報公開予定。	3

学校関係者評価

- ・P D C Aに基づいて運用ルールを分かりやすく図化して活かしてもらいたい。
- ・これまでも自己点検・評価はされているが、報告書の公開など改善していくべき点はある。これまでの自己点検・評価でも十分に学生にとって最善の学校運営がされている。また、今回の学校関係者評価委員会の設置により、学校運営においてさらなる改革・改善につながっていくと考える。